

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300421		
法人名	有限会社グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホーム「城下」しまばら	ユニット名	
所在地	島原市新湊二丁目丙1740番地1		
自己評価作成日	平成30年12月26日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成31年2月8日	評価確定日	平成31年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様やご家族様が安心して楽しく生活していただける様、個々の状態に合わせてお手伝いさせていただきます。今までの生活歴を全職員が十分に把握し、その方に合った日常生活を送っていただき自由な時間を過ごしていただいております。また毎月の活動としては、音楽療法や和太鼓練習、大人の学校などに参加されたり、その他ドライブや散歩など潤いのある生活を楽しんでいただろう支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「城下」しまばら」は、ご利用者個々のお好きな事を把握し、「城下農園」で玉ねぎや苺を植え、ご利用者に生育状況や育て方、調理方法を教えて頂いている。開設から15年が経過し、浴室や脱衣所のリフォーム(新しい浴槽、手すりを増やす、滑り止めの床等)が行われ、職員の見守りの中、ご利用者1人で浴室内を移動できる方が増えている。シャワーチェアも新調し、ご本人も職員も安楽になっている。洗面台も陶器製になり、ご利用者からも「綺麗ね」と喜ばれている。31年1月からホームでの調理が再開され、ご利用者も役割が増え、日々の生活が活気づいている。ご利用者同士の助け合いもあり、ご利用者が料理指導もして下さり、次第に表情が生き生きとなり、要介護3から要介護1までお元気になる方もおられる。ホーム内からは笑い声が聞こえ、家族の面会もあり、1つ屋根の下で大きな家族のような生活が送られており、管理者を中心に職員も仲良く、明るく、日々感謝の気持ちで過ごされている。今後も日頃行われている詳細なケアや留意点を計画に追記していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	老いても障害を持っても当たり前に分らなく普通に暮らしたい。を基本理念とし、毎朝朝礼で唱和し、実践につなげている。	理念の中の「当たり前」という言葉には、日本ならではの風習や季節の行事等も含まれており、ご利用者の方々から四季折々の行事や風習を教えて頂いている。「自分らしく普通に暮らしたい」と言う実践も行われ、野菜、苺、花を育てたり、調理等も楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加したり、事業所の行事にも参加して頂き、日常的に交流している	道路向かいの方から切り花を頂いたり、地域の方が夏祭りや餅つきを手伝って下さる。神社のお神輿がホームに来て下さり、ご利用者もお賽銭を入れている。ご利用者と地区の運動会の応援、地区のお祭り、避難訓練、鬼火に参加したり、保育園児との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の福祉体験学習や高校生のボランティア支援学校の訪問など受け入れ多くの方に勉強していただけるよう機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告や自然災害時の避難場所などに関しても皆さんの意見をサービスの向上に活かしている	地域の方々にホームの取り組みを理解して頂き、色々なご意見を頂いている。外部評価結果も報告し、「施設の状況を第三者から見てもらうのは、施設運営のために良いことかもしれませんね」等のご意見を頂いた。災害対策(水害、地震等)も話し合い、地域情報も教えて頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に状況は報告し必要な時はアドバイスを受けるようにしている	専務や施設長、管理者等が行政(支所)を訪問している。島原市に祭りの駐車場の相談をした時も、親身に対応して下さい、祭りの午前中に市の担当者が避難方法の講和をして下さった。島原市GH連絡協議会の運営に携わり、研修担当の役職も担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待防止委員会を設置し、2ヶ月に一回会議を行っている。三か月に1回研修会を開催し、拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会や勉強会を続けている。新人研修の時などに代表から「ご利用者の方を傷つけない、言葉でも傷つけない」等のお話がある。職員は日々ご利用者に寄り添い、温かいケアが行われ、ご利用者は穏やかに過ごされている。不眠等は医師に相談し、指示を頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修を行い又、外部研修などに参加し勉強する機会を設けている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の機関での研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表・施設長・管理者が家族や本人に対応し十分な理解を得られている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族より意見や要望を聞き取り運営推進会議で公表し運営に反映されている	面会時は、ご本人と家族と一緒に過ごせるように努めており、家族の方が帰られる時に要望等を伺っている。家族の協力も多く、家族からお誘いを頂き、自宅の薔薇の花を見学する事もできた。新聞を2か月に1回、職員の手紙は毎月郵送し、日々の暮らしぶりを報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い個々の職員の意見を述べる機会を設けている	施設長や管理者のお人柄もあり、要望を伝えやすい環境が作られている。代表と面談する機会も毎月作られ、職員アンケートも継続し、職員旅行も継続できている。各担当者会議(行事、身体拘束廃止委員会等)もあり、職員個々が自分の役割を担っている。	幅広い年齢層の職員が勤務しており、職員個々の育成支援を強化されている。今後も職員個々の年間目標を掲げる機会を作り、必要な研修参加や、内部研修の内容の検討に活かしていく予定である
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況を把握し、希望する勤務時間の受け入れや能力が発揮できる職場環境になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	色々な研修を受ける機会を設けて下さり働きながら学ばれている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで他施設の職員との意見交換する場がある		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人にそれとなく尋ねたり、基本情報により最も必要とされていることをくみとり、利用者の安心確保に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気軽に話せるような雰囲気づくりに心がけ、要望をしっかりと聞き取りより良い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コミュニケーションや基本情報などで、必要とされている支援を見極め支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が職員に気を使われない様、家族のように気さくに接することができるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見も十分に聞き、自分の思いも伝えより良い関係を築き共に支援できる体制が出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時にはゆっくり過ごしてくださるよう環境づくりに心がけている	ご利用者に風習や慣わしを教えて頂き、馴染みの山菜採りや野菜の収穫が行われている。自宅の仏壇参りやお墓参りに行かれる方もおられ、馴染みの病院やお祭りの時に知人との再会を楽しまれている。馴染みの島原城、お店、公園等にお連れしたり、希望に応じて年賀状を書いて頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身の状況もさまざまなので利用者が孤立せず関わり合えるように職員が間に入り支援している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族や担当者には情報提供書を記載し、提供支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしをアセスメントし希望意向に沿えるように努めているが困難な場合もあるのでそれに近づけるよう努めている	職員も横に座り、ゆっくりとご本人の思いを伺っている。「お墓参りに行きたい」「自宅の仏壇に参りたい」「お花見に行きたい」等の思いが聞かれ、家族と話し合い、願いを叶えるように努めている。「ずっとここ(ホーム)にいたい」「ここ(ホーム)で暮らせて私は幸せ」等のお言葉も聞かれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や本人・家族に話を聞くことで把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どのように一日を過ごしているかをまず観察することで有する力を把握し、毎日の健康観察で体調の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画表は担当制になっており日常記録や情報、家族の意見も参考にしながら作成し、キーワードを定め支援している	担当者がアセスメントし、職員全員で検討している。生活歴、できそうな事、楽しみ等を把握し、計画作成アセスメント要約表にまとめている。日々の役割、散歩やドライブ、歌なども計画に盛り込み、音楽療法や瑞宝太鼓、「おとなの学校」等の参加も記入している。計画内容に基づいて、日々記録している。	今後もADL(寝返り・立位・歩行等)、IADLの有する能力を記載すると共に、「できそうな事」「介助理由」「目標」「解決策」等の記録を増やす予定である。日課表に「できる事」「留意点」を追加していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は生活の様子や体調の変化、感情面など具体的に個別し、全職員で共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診やその時のニーズを把握し柔軟に対応している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園での花見や地域の神社の祭り参加、栗拾いなど利用者が楽しむよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までのかかりつけ医にお願いし又当施設の協力医にお願いしいつでも対応できるように支援している	24時間、代表、主治医、管理者等に相談でき、夜中も往診して下さる。法人の看護師にも相談でき、受診等の指示を頂いており、家族との情報共有もできている。受診時に主治医から、「城下さんに入居したら、長生きできるからね」等のお言葉を頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師に報告し、指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には常に医療機関と情報交換を行い退院後にも医療機関での情報を共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に看取り支援の説明を行うが、重度化の恐れがある場合は、その前に家族・主治医・管理者で十分に話し合いながら支援している	「最期までここで」と希望される方が多く、家族との話し合いを継続している。主治医も24時間体制で訪問して下さり、急変時は看護師(代表)と管理者も駆けつけて下さる。医師は毎日訪問して下さり、看護師が点滴して下さる。体調に応じて「重湯」等を食べて頂いており、家族も一緒に誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命士より緊急時の対応について法人内で研修を行った		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に6回自主訓練や消防署と地域を入れての訓練を行っている。又施設の設備も全て整えている	島原市GH連絡協議会で災害時の協定を結んでいる。昼夜想定で自主訓練(年6回)を行い、年2回は消防団・消防署・地域の方と4棟合同の避難訓練をしている。津波や普賢岳噴火、地震、山崩れ等を想定した訓練も行われ、各棟の代表(男性職員)が災害対策を毎月検討し、地域の避難訓練にも参加している。災害に備えて防災頭巾も購入し、災害バックや独自の持ち出し品等も準備し、避難時の車の座席位置も玄関に表示している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆっくりと丁寧な声掛けを行い利用者を尊重し態度も十分注意してプライドを損ねないように対応している	島原の優しい方言を使い、声の強弱やトーン、話す早さにも注意している。ご本人が優越感を感じるような声かけを行い、ご利用者個々を主役にできるように努めている。調理や洗濯物干し、洗濯物を畳んで下さった時も見事な仕上がりで、職員は常に感謝の言葉を伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定しやすい雰囲気づくりを心掛けその人に合った対応で支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先で、業務は後回しで行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や衣類など利用者の好みを尊重して支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器拭きなどして頂き食事も利用者と共に同じものを頂き苦手なものがあれば他のおかずを代用して支援している	31年1月からホームでの調理を再開している。ご利用者と一緒に、山にフキやよもぎ採りに行き、皮むきや食器拭き等もして下さる。ご利用者のご指導のもと、干し柿作りや甘酒作りも一緒に行われている。今後も義歯等の状況に応じた調理の工夫を行う予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の自立度に応じ形態を工夫したり主治医より処方された栄養補助食品を補給し栄養を保っている水分もしっかり摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じて支援している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し早めのトイレ誘導を心がげ本人様の自身につなげている	布の下着を着用し、トイレで自立している方も多く、職員は清拭タオルを準備し、さりげなく見守りをされている。排泄パターンを把握し、早めにトイレ誘導を行う事でパッドの使用枚数が減り、布の下着に変更できた方もおられる。排泄後は温かいタオルで清拭している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物の工夫や運動に参加してもらうことで便秘の改善の工夫を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の好みの時間帯を全職員で共有し気持ちよく入浴できるよう支援している	30年11月に浴室がリフォームされ、手すりも増え、滑り止めの床になり、見守り程度で浴室移動ができる方が増えている。入浴好きな方が多く、時間帯や湯温などの希望に応じ、湯船に浸かり、職員との会話を楽しめたり、菖蒲湯や柚子湯なども楽しめられている。体調に応じて2人介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活習慣に合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルに処方箋内容を保管し、副作用等全職員で理解できるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作り等それぞれ個々の生活歴や力を生かした支援を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の体調を見ながら支援しているが天気の良い日は外出していただくよう心掛けている	外出(冬以外)は日常で、散歩や愛犬との触れ合いを楽しんでいる。ツツ採り等に行かれたり、島原でお雛様祭りを楽しめ、お弁当を食べながら島原城の花見を行い、「ろくべえ饅頭」を楽しまれた。フラワー公園で花見、島原外港のイルミネーション見学、地元のお祭りに行かれたり、法人全体の合同花見、日曜日に「おとなの学校」等に参加している。	



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族や親せきの方に電話できるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、外庭に植えたり光の明るさは目障りにならないよう調整している。またドアの開け閉め時などにも全職員が神経を使っている	クリスマスの時はホームの外にイルミネーションを飾られている。城下体操も毎日行い、ご利用者個々の日課(家事やレク、散歩等)をされている。ご利用者同士の仲も良く、助け合いも行われ、デッキで日向ぼっこをされたり、お茶をされたり、エルゴでリハビリをされる方もおられる。リビングの神棚の高さを下げ、ご利用者に水や花の取り換えをして頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごして頂いているが、相性を見て職員が中に入れていただくこともある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身で使い慣れたタンス・寝具等を自由に持ち込んで頂き、心地よく過ごされるよう心掛けている	ご自分が育てる野菜を窓から眺める事ができる方もおられる。昼間はベッドの布団を畳み、お昼寝の時に再度布団を敷かれている。タンスや座イス、置き時計、ラジカセ等を持ち込まれ、遺影等に手を合わせ、お水と花を供えている。家族の面会時に一緒に写真を撮り、家族にプレゼントしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には大きな名札を貼り、トイレ・浴室等にも利用者がわかるように大きな文字で貼り混乱されないように工夫している		